

川柳マガジンクラブ東京句会 7月

平成30年7月13日(日) 駒込学園にて

出席者 20名

伊藤三十六、井手ゆう子、五十嵐淳隆、村田倫也、白勢朔太郎、平松 健、左道 正、山口千枝子、小倉利江、浦川一平、加藤品子、菊地順風、石田きみ、棚瀬くんじ、渡辺まもる、藤井成子、高田以呂波、河野桃葉、丸山芳夫、松橋帆波
欠席投句4名

甲野竜雄、若山かん菜、渋川溪舟、植竹団扇、

※句評会、二人選共に全作品のコメントを収録できず、一部となっていることをお詫びいたします。
(帆波)

自由吟 句評会 20080713

心音を止めて命を休ませる 伊藤三十六

いろいろ想像できるが何処まで想像していいのかがわからなかった。利江

心音と命と同じ気がするが。こういう創り方でいいのか。きみ

「心音」の意味をお聞きしたい。成子

「心臓」といわなかったところに優しさを感じた。一平

作者 死という字を分解した。死を詠んだ句。

休ませるといふのは再生ではない。「心音」つまり雑念を消して、それから死んでいくという順を描いた。

「止まり」ではなく「止めて」だと自分の意思が入るのでは(倫也)など、いろいろな意見がこの後噴出。「心臓が止まったら死んじゃうじゃない」(きみ)など・・・

白桃の肌にそおと刃を当てる 井手ゆう子

作者の優しさが出ている。「刃を当てる」怖い感じもする。きみ

綺麗な肌の娘さんを連想しました。千枝子

「そおと」と「そーと」という表記を比較してみた。朔太郎

場面がよく表されているのだが、その先を聞いてみたい。表記も。芳夫

イメージが鮮烈。危険な色っぽさを感じた。正

作者 「包丁」という課題で作った過去の作品です。「そーと」だと時間の経過を表すのではと感じ「そつと」ではなく傷つきやすいもの対して「そおと」という表記を使った。

この後表記について様々な意見が出る。「く」という表記や「よおく」「よーく」など。課題吟であるから選者がどう読むか。こういった表記について迷わせているのは選者の披講ではないか。句意を参加者にどう伝えるか。「そおと」の「お」は何音ですかとの質問も。

印刷された場合の文字から受ける美観をどう捕らえるか。など・・・

どれがどの町の事件か判りかね 五十嵐淳隆

作者 先の二句のすばらしさに脱帽・・・

※コメントなしです。

赤子抱く妻は保護者の腕になり 甲野竜雄

「腕になり」をはもう少し別の表現があるのではと思う。きみ

らくらくと子を抱いている娘を見ると母は強しと感じます。倫也

お母さんの腕の凄さに感心。桃葉

※ 作者欠席

実話です日本沈没上映中 若山かん菜

下六ですが、現在の温暖化など、環境問題を連想させる。利江

政界など今いろんなことが進行中なのと重ねて、上映中という言葉がイメージを湧かせる。

成子

作者 この句を作ったきっかけは大阪の橋元知事が、大阪が沈没するとの発言を聞いたことです。知事の発言はおそらく沈没を財政破綻の意味で使っていたと思いますが、私は財政破綻だけでなく、環境破壊、モラルの崩壊などの意味を含めて沈没ということばを使ってみようと考えました。大阪より日本を沈没させよう、日本沈没といえ小松左京(だったでしょうか)原作の映画があったのと思い出しました。3年くらい前に映画になりましたが、知名度があまりないかなとの危惧もありました。下五については、映画がいままさにやっているという意味で

は上映中が最適かと考えました。「見に行こう」も考えましたが、意味が違ってしまっているので、「上映中」にしました。

※ 作者欠席

「日本沈没」については、ご存知の方は皆さん30年ほど前の最初の作品を想定されていました。最近のリメイク版をご存知の方はおられませんでした。

ハリウッド映画の規制語られず 松橋帆波

秋葉原の事件の後の次の週のテレビ映画を見て感じた事。

遊んではいけない人と遊びたい 村田倫也

どういう意味でしょうか。若い方の作品でしょうか。きみ
優しい言葉で楽しい句。私も書きたいと思う。
三十六

説明抜きで面白いと思う。芳夫

とても気になる作品。順風

意味深。子供同士も取れるが、大人のことでして理解できる。一平
面白い作品だと思います。品子

作者 子供の頃の思い。遊んではいけないといわれる子ほど魅力がある。もっとほかに遊んではいけない人を想像していただいても構いません。

胸上げに千手観音手を貸さぬ 白勢朔太郎

意味が判らなかつたので作者の方にお聞きしたい。伊呂波

作者 胸上げにもいろいろあって、落とされて怪我をする例もある。そういうときに、手が沢山ある千手観音が助けてくれれば怪我もしないのにも思うが、そんなことはないだろうということですよ。

上がらないものは夕日と給与だけ 平松 健

まさに現代を詠んでいる。朔太郎

作者 今便乗値上げでいろいろなものが上がっているが、給料も年金も上がらない。それを強調するために夕日という表現を使った。

見立ての作品の下五の検証を機会があればしてみたい。

達筆を半分カンで読み終える 佐道 正

中七に同感しました。伊呂波
実感としてよく判る。倫也

いい句です。品子
半分カンというところがいい。実感がわかる。ゆう子

実感として分かる。桃葉

実感。成子

実感句ですね。一平

作者 出来るだけ一読明解を心掛けています。実際に体験した事柄を基に詠んだ作品です。

たっぷりと老に甘えて生きてます 山口千枝子

半分羨ましい作品だなと思いました。順風

作者 後期高齢者などといじめられているように、席を譲ってもらったり、荷物を持ってもらったりと、歳を取ったら親切にしてもらえりし、歳を取るのも悪くないなど感じる時がある。そのことを基に詠みました。

※自分の老いですか？親の年金に甘えている意味ですか？という質問がありました。
句意は作者自身の老いということですよ。

友の訃にふと立ち止まる死生観 小倉利江

実感句。きみ

「立ち止まる死生観」なのか「立ち止まる」「死生観」なのか、どのように切って読むのかが分からない。正

実感として感じるものがあります。伊呂波

作者 実際の体験から感じた思い。若い方が亡くなるショックは大きい。

※死生観という言葉を使わずに死生観を表現できないうか？という質問がありました。無常観、死生観、など作者にも迷いがあった。テーマが重い作品が今回は多かった。

名医だよ母の一声チンパイ 浦川一平

チンパイの略。情景が浮かぶ。それで病気が治るかどうかは別だが。まもる

作者 子供のころ病院が遠くてちよつとしたことでは医者に行けなかった経験を基に詠んだ。

年金を芝浜と見てする預金 加藤品子

落語の芝浜らしいが、もう少し具体性が欲しい。利江

年金の金と預金の金が気になる。着想がいいので「芝浜を聞いて年金手をつけず」などではどうか 淳隆

芝浜は大金を拾う夢なので年金とちよつとそぐわないのでは。芳夫

芝浜はホントにあったお金で、年金はどうだろう。くんじ

作者 いろいろなご意見があるなと思いつながら出した作品です。芝浜の、夢だよといわれて、手にお金をあてにしないで立ち直ったところを取り込んで、当てにならない年金という意味を表したかったのだが・・・

釣銭の手と手が触れて通う店 菊地順風

気持ちがよく判る。店の人が魅力的なのだろうか。倫也

男の人はしょうがないなあという印象。面白い。ゆう子

釣銭を投げ出す人がいるような店には二度と行きたくないが、そういう意味でいいところを突いている句だと思う。 淳隆

釣銭で手が触れるのだからよほど親密な店ではと感じた。トレイで貰うのが多いので。朔太郎
最近では職場教育が進んでいて、こぼさない様に教育されているのを知らないで喜んでるのかなというところが面白い。 健

作者 若い人がアルバイトしているような、日常生活の中のお店の風景。

披講時に「釣銭の手と手が」触れるのか「釣

銭の手と 手が」触れるのか、作者の思いを音

として伝える披講を検証したい。

※釣銭が落ちないように手を添えるマニュアルに対して、お金は多くの人の手を渡すものだから、その手でお客の手に触れるのはどうかという意見があると見たといいご指摘があり

ました。

うらおもてある手のひらで握手する 渋川溪舟
意味深く面白い。世渡りの裏表がよく出てくる。きみ

握手にもいろいろ思惑が絡んでいる監事がよく出ている。倫也

握手せざるを得ない時がある。不本意な握手、嫌々する握手を思わせて面白い。まもる

「手のひらと」と相手に裏表があるようにすると面白いのでは。 淳隆

こういう手の見方もあるのだなと思いました。千枝子

「手のひらで」でいいと思う。作者は自分を見つめているのでは。三十六

「手のひらが」ではどうでしょうか。芳夫
いい句だと思うが、てのひらの裏は手の甲ではという事を感じた。正

実は心の中の裏表を表現されているのではと感心した。くんじ

披講時に「うらおもてある手のひらで」「うらおもてある手のひらで」という間の取り方。そこで思いを何処まで伝えられるかを検証したい。

※ 作者欠席

高齢の線を引かれて納まらず 石田きみ

実感句としていい。利江
時事としていい句だと思う。品子

作者 今更に後期だの末期だのといわれる事に腹が立ちました。

運ちゃんにチップを貰うお役人 棚瀬くんじ

「運ちゃん」という表現は差別的な印象を受ける。表現としてどうか。 健

作者 いわゆる居酒屋タクシーの事を詠みました。

娘のケータイ鳴ると家中耳となり 渡辺まもる

そういうことあったなと思いました。成子

「家中耳となり」は面白いと思ったが、今はもう携帯電話なのでどうだろうと思う。

「娘」は「むすめ」であるから字余りになるのでは。健

作者 まず「家中耳となり」という部分が出来て、その後で上の部分を作りました。「娘」の表記につきましては、争点があることは知っていますが、通常使われている表記であるという認識で使いました。「耳となる」では静止しているイメージがあるので「耳となり」にいたしました。

取り柄なくスポットライトあたる夢 藤井成子

作者 実際には目立つ存在ではないのだが、心の中ではスポットライトを浴びたいという願望があるという点を表現してみたかった。

クラス会小学生にすぐ戻り 高田以呂波

老いてもこういう時があってもいいなと思いましたが。桃葉

作者 クラス会があったときの情景描写に終わってしまった。

印鑑を嫁に委ねて旅に出る 河野桃葉

印鑑を広げて解釈すれば、大切なものを嫁に預けるという事。朔太郎

全幅の信頼を寄せているのか、不測の事態を想定しているのか、深い句だなと感じた。順風
信頼を寄せていると同時に、覚悟の程を感じる。くんじ

作者 私の歳を取ってからの上手な生き方の工夫。息子より嫁を大事にして毎日遊んでいきます。

骨盤が平行移動するダンス 丸山芳夫

ダンスは知りませんが、骨盤が平行に動くという風景が面白いと思います。まもる
フラダンスを連想しました。ゆう子

年配の方の社交ダンスのイメージが浮かんでくる面白い作品。三十六

作者 テレビのダンス教室を見ていたときに浮かんだ。手や足はよく動くのだが、腰はしっか

りしている。そこで骨盤と大きさに表現してみました。

課題吟 「食べ物一切」
一人選

「食べ物一切」加藤品子選

「佳作」

綿菓子雲から湧いてくる童話 朔太郎

キャットフードたっぷり入れて一人旅 ゆう子

老夫婦もらった西瓜持て余し 千枝子

にんじんが今も嫌いと思う母 正

単身は三日続けてカレー食い 正

もったいないで生かす人参の尻尾 利江

舟歌の肴なくする原油高 健

値上がりへ無駄に出来ないパンの耳 利江

国産をキョロキョロ探す迷い箸 三十六

二ハオと偽装うなぎがしゃべり出す 順風

「秀句」

坪庭によく似合ってるプチトマト まもる

一月で日本国籍取るうなぎ 健

無洗米ようやく母は受け入れる ゆう子

「特選」

中国に鮪の味を盗まれる 淳隆

「食べ物一切」伊藤三十六選

「佳作」

綿菓子の雲から湧いてくる童話 朔太郎

お茶漬けにはまっていますセレブです 千枝子

もったいないで生かす人参の尻尾 利江

虫食いの野菜を見つけ安堵する 倫也

買出しも間近に迫る自給率 倫也

闇市で始めて食べた白いパン 倫也

飢餓の児に古古米さえも喜ばれ 淳隆

値上がりへ無駄に出来ないパンの耳 利江

一月で日本国籍取るうなぎ 健

坪庭によく似合ってるプチトマト まもる

「秀句」

中国に鮪の味を盗まれる 淳隆

期限切れ夫の腹で試してる まもる

キャットフードたっぷり入れて一人旅 ゆう子

「特選」

薄切りのパンにたつぷり塗る皮肉 朔太郎

選考後、選者のお二方に幾つかご質問をさせていただきますました。

・帆 波 「食べ物一切」という課題で、集句の傾向をお二人にお聞きいたします。

・三十六 世相を反映したものが多かった。食品の偽装、期限切れ、中国の輸入食材など。加えて家族の生活の一端を詠んだものに分けられる。天下国家を論ずるものは課題が課題だけに無かった。

・品 子 無洗米に関して、昔の感覚だと贅沢な印象なのだが、最近では水を使わないという点で評価が変わってきている。無洗米の作品はとらえどころが良かったと思う。後はやはり鰻などの食品の問題。そんな中でインパクトのあるもの、着想がストレートに響くものを選ばせていただいた。

・帆 波 お二人とも没にされている中からお聞きします。

「毒ギョーザ自給率知る世界地図」
鰻、鮪、の作品はお選びになっていきますが、「毒餃子」はもう古いのでしょうか？

・三十六 この作品には誤字がございましたので、頂きませんでした。

※句箋では(毒ギョーザ自給卒)と表記されていきました。

・品 子 「自給率知る」のリズムに違和感を覚えた。一読した時に中人の印象を抱いた。

・帆 波 食べ物一切という課題でしたが、「鰻

・鮪・餃子・パン」などのように具体的な名称が入っている作品と、品子さんは抜いておられますが

舟歌の肴なくする原油高
のように具体的な名称のない作品とを比較して何か印象はございましたでしょうか？

・三十六 これは「舟唄」という八代亜紀さんの歌の文句だと判ったのですが、課題とは縁遠いかと判断いたしました。「食」詠み込み可という出題なら違ったのでしようが、「食べ物一切」という課題であれば、やはり食品が主役で具体性があつたほうが課題に沿うと思います。

・帆 波

草を食う牛のゲップもCO2
西瓜割りカラスがそれを待っている
どちらも主役が食べ物ではありません。食べ物がある中にあるのですが主役はそれではありません。三十六さんのお話のように「一切」という出題ではある程度具体性がないと選出は難しいかと思えます。

・帆 波 何かご質問がございましたら。

・淳 隆 一月で日本国籍取るうなぎ
という作品ですが「一月」というのは「一ヶ月」という期間のことですか？

・品子 これは偽装工作にそのくらいの期間掛けているのでは、という理解で選出いたしました。「あつという間」とかそういう意味だと思えます。

・帆波 法律では一番長く飼われていた場所が産地として表示できるので、そういう意味で一ヶ月を指しているのではないかと思えます。

・帆波 三十六さんが特選に選ばれた作品薄切りのパンにたっぷり塗る皮肉を品子さんは選んでおられませんが、これについて少しお聞かせください。

・品子 意味として判る。しかし、薄切りと
いうのは小麦の高騰を表しているの
だろうが、たっぷり塗るものがジャ
ムかバターかその辺りがはっきりし
なかった。何を塗っている事で皮肉
になるかの具体性が欲しかった

・三十六 「皮肉」が効いていると感じた。具
体的なものはないくらい素敵な
作品だと感じました。

・帆波 どうもありがとうございます。